

# 地質標本館カフェ朗読会

## 宮沢賢治「樺ノ木大学士の野宿」 —イーハトーブの石たち—

住田達哉<sup>1)</sup>・吉田清香<sup>1)</sup>・中川明日香<sup>1)</sup>・朝川暢子<sup>1)</sup>  
菅家亜希子<sup>1)</sup>・関口 晃<sup>1)</sup>・今西和俊<sup>2)</sup>・渡辺真人<sup>1)</sup>

### 1. はじめに

2013年2月16日(土)、地質標本館および産総研共用講堂にて、地質標本館カフェを開催しました。題材は、宮沢賢治著「樺ノ木大学士の野宿」です。

宮沢賢治の作品には「地学童話」と呼ばれる作品群があり、宝石や鉱物の名前、火山活動のモチーフ、賢治が盛岡高等農林学校(現・岩手大学農学部)地質及土壌教室で学んだ知識や経験などが作品に生かされています。今回とりあげた「樺ノ木大学士の野宿」は、多くの鉱物名や専門的な地学知識を含むため、地学童話としては抜きん出た作品です。しかし、専門的な地学知識を持ちえない一般の読者には非常に難解なため、宮沢賢治の良く知られる作品として挙げられることは稀で、宮沢賢治ファンと云えどもその作品を読み込んだ者は多くないと推察されます。

さて、通常のサイエンスカフェでは、カフェのような雰囲気の中で科学を語り合うのですが、今回は新しい試みとして、宮沢賢治の作品の朗読をカフェとともに楽しむスタイルとしました。ただ作品を朗読するだけでは、難解なままです。地質標本館見学と地質学用語の意味や宮沢賢治自身の背景に関する解説を織り交ぜて、作品そのものを楽しむ基礎知識を提供しました。このことは、逆に宮沢賢治の作品をきっかけとして、一般の方の地学的な興味を喚起する狙いもあります。地質調査総合センター関係者による賢治文学と地学・鉱物学啓蒙のコラボレーションは、単行本では、「宮沢賢治の地的世界」(加藤, 2006)、「賢治と鉱物」(加藤・青木, 2011)、「宮沢賢治地学用語辞典」(加藤, 2011)、記事では、「温故知新・宮沢賢治と保阪嘉内の「秩父巡検」考」(加藤, 2012)、イベントでは、2008年5月の「宮沢賢治ジオツアー」(岩松, 2009)、2010年11月から2011年1月まで開催された地質標本館特別展「イーハトーブの石たち—宮沢賢治の地的世界—」と2

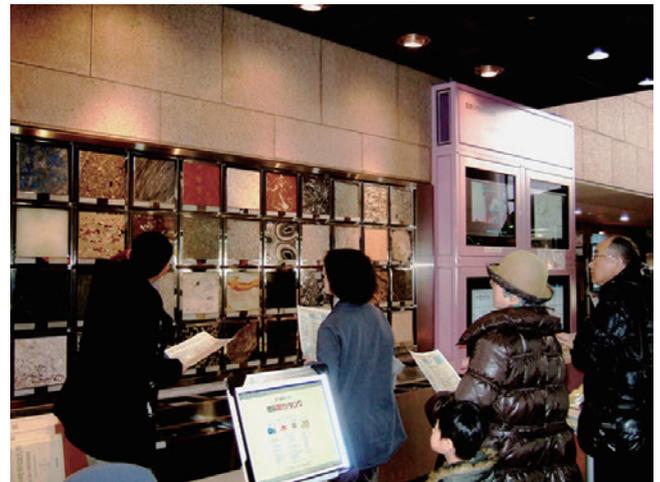


写真1 地質標本館での見学の様子。  
特製のガイドパンフを手に熱心に説明に聞き入る参加者の方々。説明員(一番左)は、住田。

回の朗読会(澤田ほか, 2010; 加藤ほか, 2011)、2013年2月10日の「第16回仙台まちなかサイエンスinもりおか」でのサイエンストーク([http://www.aist.go.jp/aist\\_j/event/ev2013/ev20130210/old\\_ev20130210.html](http://www.aist.go.jp/aist_j/event/ev2013/ev20130210/old_ev20130210.html))などがあり、ほぼ全ての企画に産総研フェローだった加藤碩一氏と青木正博氏(地質標本館名誉館長)の両名がかかわっています。今回は、加藤フェローから朗読会および解説講演の提案をいただき、加藤フェローと青木名誉館長の両名および地質標本館スタッフとの連携で地質標本館カフェとして実現するに至りました。

### 2. 当日の様子

当日は、35名の参加者がありました。最初に、作品に登場する地学・鉱物学の基礎知識を習得することを目的に、特別のガイドマップに沿っての地質標本館自由見学を行いました(写真1)。その際、物語に登場する関連鉱

1) 産総研 地質標本館  
2) 産総研 地質標本館(現:活断層・地震研究センター)

キーワード:サイエンスカフェ, 宮沢賢治, 朗読会, 地質標本館, アウトリーチ



写真2 朗読者の中川さん（右）と長澤さん（中央）。  
第二夜では、地質標本館スタッフの中川（左）も朗読に参加。

物標本の近くに地質標本館スタッフに加え、5人のジオマイスター<sup>※1</sup>らが立ち、標本の解説を行いました。その後、共用講堂の多目的室に場所を移しました。多目的室には、青木名誉館長撮影の鉱物写真パネル（解説付き）を19枚展示し雰囲気を出しました。さらに各テーブルには、ルーペとともに物語に関係の深い岩石・鉱物標本として“流紋<sup>りゅうもん</sup>ガラス”（黒曜石および流紋岩中の球類），“流紋ガラス中のタンパク石”（流紋岩の球類に含まれる蛋白石），“花崗岩とその風化”（黒雲母花崗岩およびその風化物）を配置しました。

利光誠一地質標本館長による挨拶の後、メインの朗読は「<sup>とりでふじしろ</sup>取手藤代図書館 読み聞かせの会オルゴール」会員の長澤和美さんと中川和子さん（写真2）が、解説は加藤フェローと青木名誉館長（写真3）が担当しました。地質学・鉱物学用語の多用による作品の難解さを避けるため、物語のパートごと（一夜ごと）に朗読と解説を行いました。解説は、専門用語の解説のみならず、賢治自身が盛岡高等農林学校で地学教育を受けたことなど作品を生み出した背景まで踏み込んだ丁寧で分かりやすいものでした。朗読は、第一夜の擬人化された岩頸<sup>がんけい</sup><sup>※2</sup>からなるラクシャン4兄弟を声色の変化で読み分けるところや、地質標本館スタッフの中川も加わっての3名による第二夜の朗読などが聞きどころでした。特に第二夜は、擬人化された多くの造岩鉱物が登場し、セリフがどの鉱物から発せられたのか読み解くことが大変難しいパートなのですが、加藤フェローの助言の下、スタッフの中川と朗読者による綿密な打ち合わせが実を結び、見事な朗読劇を展開しました。朗読中は、照明を落として星空のイメージをプロジェクターでスクリーンに投影したのですが、会場に響く朗読劇を聞いていると、ま



写真3 解説担当の加藤フェロー（右）と青木名誉館長（左）。  
休憩中も、参加者の方々と和気藹々としたカフェ談議が弾みました。

るで自分が楯ノ木大学士になったように錯覚します。また、休憩の合間には、加藤フェローと青木名誉館長の両名に加えジオマイスターや地質標本館スタッフからの説明を受けながら、カフェ参加者の方にテーブル上の岩石・鉱物標本に実際に触れてもらったり、ルーペで観察をしてもらったりしました。

朗読と解説の終了時、参加者から大きな拍手を送られたのが印象的でした。その後、ある参加者はしばしのカフェ談議を楽しみ（写真4）、またある参加者は再び地質標本館で標本を前に余韻を楽しむなど、成功裏にイベントを終了することができました。

### 3. アンケート

アンケートには、30名の方からご協力を得ました。参加者の年齢層は幅広く、小学生から70代の方までご参加いただきました。特に60代の方が8名と関心が高かったようです。つくば市内・茨城県内（つくば市除く）・県外からの参加者はそれぞれ全体の3分の1程度でした。「今回の地質標本館カフェで地質学や鉱物などへの関心が高まりましたか？」との設問には、高まった（23名）、やや高まった（6名）、未記入（1名）の回答を得て、さらに自由記載欄でも5名の方から「文学と地学のコラボレーション」についての直接の言及と好評をいただくなど、当初の狙い通りの成果を収めることができました。宮沢賢治のファンの方にも、地質学好きの方にも、両方ともに楽しんでいただくことができました。一方で、小学生から作品の字幕を流しながらの朗読を要望されました。字幕については、当初検討して、朗読の世界への集中を高めるために意図的

に取りやめられたのですが、子供たちにとっては、聴覚情報のみで物語の世界を想像することはまだ難しかったかもしれません。小・中学生だけには印刷物を渡すなど、次回に向けてのきめ細かい対応について課題を見出すことができました。

最後に、朗読者の長澤和美さんと中川和子さん、解説者の加藤碩一フェローと青木正博名誉館長、ご挨拶いただいた利光誠一館長、準備・標本の解説・テーブルの世話役とご活躍くださった5人のジオマイスター（金田玄一さん、末武聖明さん、後藤美千代さん、中島英彰さん、置田良一さん）、そして楽しく熱心な雰囲気のカフェに参加くださった一般の皆さま方に、この場を借りまして感謝申し上げます。本イベントは、「筑波山地域ジオパーク推進協議会」および「ジオネットワークつくば」の後援で行われました。

- ※1 筑波山とその周辺地域の自然環境に関心を持ち、郷土の自然環境を解説するリーダーとして、ジオネットワークつくばが育成し認定。筑波山地域ジオパーク推進活動においても、先導的な役割が期待されている。
- ※2 火山が噴火する際にマグマの通り道（火道）であった部分が冷え固まり、周囲が浸食・剝された後もそのまま残った形成物およびその地形。

## 文 献

- 岩松 暉（2009）宮沢賢治ジオツアー。地質ニュース，no. 653，32-33.
- 加藤碩一（2006）宮沢賢治の地的世界。愛智出版，東京，142p.
- 加藤碩一（2011）宮沢賢治地学用語辞典。愛智出版，東京，460p.



写真4 朗読終了後も、熱心な参加者とのカフェ談議が続きました。男性陣左から、加藤フェロー、利光館長、ジオマイスターの末武さん。右奥女性は、ジオマイスターの後藤さん。奥のボードには、青木名誉館長撮影の鉱物写真パネルがずらり・・・

加藤碩一（2012）温故知新・宮澤賢治と保阪嘉内の「秩父巡検」考。GSJ地質ニュース，1，no. 10，293-309.

加藤碩一・青木正博（2011）賢治と鉱物。工作舎，東京，272p.

加藤碩一・青木正博・長森英明・澤田結基（2011）イーハトーブの石たち－宮沢賢治の地的世界。地質調査総合センター研究資料集，no. 529，産業技術総合研究所地質調査総合センター。

澤田結基・長森英明・青木正博・加藤碩一・伊藤順一（2010）秋の特別展「イーハトーブの石たち－宮沢賢治の地的世界－」。GSJニュースレター，no. 75，4-5.

SUMITA Tatsuya, YOSHIDA Sayaka, NAKAGAWA Asuka, ASAKAWA Nobuko, KANKE Akiko, SEKIGUCHI Akira, IMANISHI Kazutoshi and WATANABE Mahito (2013) Dramatic reading “Bivouacs of the great scholar Naranoki (Japanese oak tree)” written by Kenji Miyazawa: the science cafe at Geological Museum named “Stones in Ihatov (Iwate)”.

（受付：2013年4月15日）